

じんじゃさんばい さほう  
神社参拝の作法

じたく かみだな  
自宅の神棚で

がっ にち じんじゃさんばい  
「〇月〇日に△△神社へ参拝しますので、  
とりつ ねが  
お取次ぎよろしく願いいたします。」  
ねが  
とお願いしておく。



とりい まえ かる じぎ  
鳥居の前で軽くお辞儀をし、  
き もう  
「〇〇から来た△△と申します。  
ねが  
よろしく願いいたします。」  
とあいさつする。



さんどう はし ある ちようずしゃ い  
参道の端を歩いて、手水舎に行く。



ちようずしゃ み きよ  
手水舎で身を清める

ちようずしゃ さほう  
手水舎の作法

- みぎて ひしゃく も ひだりて きよ  
1、右手で柄杓を持ち、まず左手を清める。
- ひしゃく ひだりて も か みぎて きよ  
2、柄杓を左手に持ち替え、右手を清める。
- いちど ひしゃく みぎて も なお  
3、もう一度、柄杓を右手に持ち直し、  
ひだり て みず ぐち  
左の手のひらに水をため、口をすすぐ。
- さいご いちどひだりて きよ  
4、最後にもう一度左手を清める



はいでん い  
拝殿に行き、軽くお辞儀をする。



さいせん すず な  
お賽銭を入れて、鈴を鳴らす。



はい れい  
2 拝 (2 礼)



じんじやはいし そうじょう  
神社拝詞 奏上

じんじやはいし  
神社拝詞

か かしこ じんじや おおまえ おろが まつ  
掛けまくも 畏き ○○神社の大前を 拝み奉りて

かしこ かしこ もう おおかみたち ひる あつ みめぐみ かたじけな まつ  
畏み 畏みも 白さく 大神等の 広き厚き御恵を 辱み奉り

たか どうと み おし すめらみこと あお まつ  
高き 尊き神教えのまにまに 天皇を 仰ぎ奉り

なお ただ まごころ まこと みち たが  
直き正しき真心もちて 誠の道に 違ふことなく

お も わざ かげ たま いえかどたか み すこやか  
負い持つ業に 励ましめ給い 家門高く 身健に

よ ひと つ たま かしこ かしこ もう  
世のため 人のために 尽くさしめ給へと 畏み 畏みも 白す

↓

はい れい  
2 拝 (2 礼)

↓

はくしゅ  
2 拍手

↓

かんしゃ きも の ねが こと  
感謝の気持ち を 述べる。 願い事をする。

↓

はい れい  
1 拝 (1 礼)

↓

かる じぎ  
軽くお辞儀をする。

↓

すこ はいでん はな  
少しあとずさりして 拝殿から 離れる。

↓

とりい で ふ かえ かる じぎ  
鳥居を出たら、振り返り、軽くお辞儀をする。